



経鷺会の理念とそのための事業展開について

春本番の候、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。私が昨年10月の経鷺会総会において会長に選出され就任後早6か月になるとしております。皆様には常日頃から経鷺会活動にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私の会長としての役目に経鷺会の理念にある「参画する喜び、語る喜び、学ぶ喜び、協力する喜び」を共有する“場”を提供することがあります。参画し・語り・学ぶ喜びの場として毎年総会後に開催される上智の一流教授による講話では知識欲を満たす場が、それに続く経済人としての経験に基づく卒業生による講演では感動や共感を分かち合い、懇親会では語る喜びを創出するメイン事業です。毎年5月のASF開催時の経鷺会ワイン講座では、充実したライフスタイルを楽しむソフィアンにとって絶妙のスパイスとなるワインに対するトレンド紹介やワインと共にある生活スタンスのあり方を提供し、同時に野菜ソムリエでもある私の妻によるワインに合うお料理の試食は卒業生ばかりでなく同伴された奥様や教授にもとても評判の良い春の重要な事業となっています。

さらに皆様の浄財をもって母校や経済学部に貢献する「協力する喜び」の創造があります。昨年の大震災で被災された母校の学生に対する緊急支援金では高祖理事長、滝澤学長から心からの感謝の言葉を戴きました。そして毎年続けている研究奨励金では上山経済学部長からのお礼の言葉をはじめ、受賞された学生から「ありがとうございます。学ぶ励みになります。名誉に感じます。」と率直な喜びの声を聞くことができました。これら具体的なアクションに対する評価は非常に高くこれからもぜひ継続していきたい事業です。

経鷺会会員の皆様の中には遠方であったり、当日のご予定などによってイベント参加ができない場合もございますですが、会報誌であるエコノミアンはこれらイベントの様子をご報告することをはじめ、各界で活躍されている経済人のご紹介をさせて戴き、直接参加できなかった会員の皆様にも参画する喜びをご提供できていると自負いたしております。また経鷺会ブログページではエコノミアンのバックナンバーをはじめ各事業の事前告知など随時更新し情報発信をいたしております。

検索エンジンで「上智大学経鷺会」でヒットしますので是非ご利用ください。

上智大学創立100周年記念行事にむけて

私の会長任期中には上智大学創立100周年・経鷺会発足25周年の大イベントがあり、これを成功に導くというもう一つの大切な役目があります。現在はその大事業の頂上が見えるベースキャンプにたどり着いたところでしょうか。今後は何度も往復しながら第1、第2、第3のキャンプを設営し、最後は登頂に向けファイナルキャンプを築いていかねばなりません。私自身は微力ですが3人の副会長はじめ各委員会の委員長と委員は一人一人がスペシャリストであり力を結集すれば大きなパワーとなります。私たち役員は強い意志を持って事業成功を目指してまいります。楽しく意義ある場の提供を考えますので、会員の皆様には会員組織の充実のためご友人のご紹介、研究奨励金へのご寄付を含め会費納入へのご理解、ご協力をお願いいたします。今後の事業に是非積極的にご参加ください。



経鷺会会長 上原 隆一
(1976年卒)

—経鷺会執行役員（任期23.11.1～25.10.31）のご紹介—

会 長：上原隆一（S51 経営）

副会長：田村 隆（S52 経経）、伊達万寿夫（S52 経営）、角井亮一（H02 経経）

特別事業企画委員長：秋葉 哲（S42 経経）、事業企画委員長：小国敏雄（S53 経営）

総務委員長：三輪一夫（S53 経営）、組織委員長：西島敏夫（S54 経営）

財務委員長：桑原清幸（H07 経経）、広報委員長：高増 文（H15 経経）

知と遊びの経鷺会

1958年経・経卒 元経鷺会会長 川野 克美

初めてのダイブ

インストラクターの合図で、いよいよ潜水を開始する。背中に背負った重いタンクやスキューバ器材も海の中では気にならない。BCD（浮力調節のためのジャケット）の空気を少しずつ抜いて、深く静かに潜行する。沈むにつれて水圧が増し、耳やサイナス（副鼻腔）の空間が圧迫されるので、こまめに「圧平衡」を繰り返す。

初めて体験する海底20メートルの世界はエキサイティングであった。伊豆半島の大瀬崎湾にあるダイビング・スポットで、ダイビング・スクール最後のトレーニングはこうして始まり、1泊2日、4回のダイブで実地訓練のカリキュラムを修了した。ここまでくるには、6時間のレクチャーで基礎知識を習得し、次にほぼ一日がかりのプールダイビングで器材の使用法・基本スキルを身につけ、3番目のステージが海にもぐる実習となる。最後には筆記試験でこれまでの知識やスキルを試される。

年齢詐称

「いい年をして、よくダイビングをやる気がしましたね」と当時は冷やかされることが多かった。しかし、これにはきっかけがあった。10年前の夏、友人に誘われて映画『原色の海・Wonder Under Water』を見た。モルディブ、セイシェル、紅海、カリブ海などの海に広がる生命の営みが感動的に描かれていた。この映画の撮影、監督がレニー・リーフェンシュタールで、かつてベルリン・オリンピックの記録映画を撮った伝説の女性であった。彼女がこれまで2000回を超えるダイビングの記録を1年余の時間をかけて編集し、彼女の百歳の誕生パーティーで披露した作品がこの映画である。その上、レニーのダイビングとのかかわりがことのほか興味をそそった。

話によれば、彼女は71歳のとき、海底の生命に魅せられ、51歳と偽ってダイビング・スクールに入った。高齢者の入学は断られると察してのことであろう。ともかく、無事に修了してダイバーのライセンスを取得した。そのとき初めて年齢を明かすと、周囲からは拍手喝采が上がったという。



ある晩、経鷺会サロンで

年齢を偽ってまで彼女がやりたかったダイビングとは、そんなに面白いものなのか……それならいまのうちにということになった。

当時、毎月1回、第2水曜日にソフィアンズクラブで経鷺会サロンが開かれていた。卒業生のネットワークづくりの場である。ワイン片手に、公認会計士の大滝さん（1963年経・経）に“もぐり”の話をする、なんと彼はダイビングのエキスパートで、夜の8時だというのにその場で携帯電話を取り出して彼の懇意にしているダイビング・センターに申し込んでくれた。かくて、隣にいた酒類卸会社社長・ワインソムリエの上原さん（1976年経・営、現経鷺会会長）を誘って、二人でオープン・ウォーター・ダイバーの門をくぐった次第である。ちなみに、申込書には受講年齢は10歳以上とあり、何歳までとは書いてなかった。時を経て、沖縄やグレートバリアー・リーフに遠征し、『原色の海』を体験した。



経鷺会活動を盛りたてよう！

経鷺会のおかげでダイビングを知ったいきさつを書き留めてみたが、この種の話は他にもいっぱいある。それにしても、1万人を超える会員の活性化、すなわち、会費や寄付で会の活動を盛り立ててくれる会員の拡がりをつくることは、これまでにない大きな課題である。間近に控えた「100周年」がドアーを開くきっかけになればと思う。

エコノミアン読者のみなさん、まず、友人を誘って当会のイベントに顔を出してみてください。あるいはネットで当会のブログにアクセスしてみてください。「あそこへ行けば何か面白いことがある」一ブログでいえば、週1回のペースで日本が直面する諸問題（ユーロ危機、原発、TPPなど）を海外ではどうみているかなど、ときには全文英語でレポートが読める。経鷺会副会長の田村さんの献身的なご協力に負っている。ご希望の向きはメールアドレスを当会に登録すれば、それでOK。アクティブ会員が今より1,000人、2,000人と増えて、会員相互のネットワークづくりに貢献できれば1万人のポケットマネーで研究奨励基金を太らせることもできる。

レニーは「未来がこの美しい生命を失うことがないように」と云ったが、経鷺会の未来も輝きを失わないように切に願うものである。



ディータース先生（元本学理工学部長）と
歓談中の筆者（右）



左から濱口会長、玄葉外務大臣、高祖理事長

ソフィア経済人倶楽部 賀詞交歓会のご報告

2012年度ソフィア経済人倶楽部 賀詞交歓会が1月24日アー
クヒルズクラブにて盛大に開催されました。

ゲストには、高祖敏明上智学院理事長、玄葉光一郎外務大臣、
ウィリアム・カリー上智大学元学長、ドナル・ドイル上智大学名
誉教授、早下隆志上智大学理工学部長、上山隆大上智大学経済学
部長、本多義人東神インターナショナル株式会社社長、細川佳代
子スペシャルオリンピック日本名誉会長を迎え、華々しく会が催
されました。

100人の目標人数に対して、全体で120名を超えるご参加を
頂き、ソフィア経済人倶楽部の新年の門出にふさわしい、熱気あ
ふれる会となりました。



細川元総理大臣夫人にもご参加頂きました。



いろいろな分野で活躍される方々が集いました。



オリジナルの樽の日本酒で鏡開きを行い
新年を祝いました。



若手のメンバーも交ざってます。



最後はみんなで輪になり校歌斉唱で締めくくり。

初めて被災地ボランティアに参加して

1962年経・経卒 池谷 誠司

「千葉県・船橋から岩手県陸前高田・大船渡へ」

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、想像をはるかに超えたマグニチュード 9 という大地震が三陸沖で発生し、大津波と原発事故を誘発して日本の国の存亡の危機に陥った。

あの大災害から 3 ヶ月後の 6 月 10 日の朝日新聞千葉版に掲載された「船橋から出発するボランティア募集」の記事が目に残った。義捐金を送付しても果たして被災者の手に渡るのか分からない中、かねてから自分には十分時間があるので自分で被災地を訪れてボランティア活動をしたいと考えていた。しかし現地に入って戦力になるのだろうかかと悩んだ末に 6 月 18 日に申し込みの FAX を入れた。このツアーを企画した県高齢者生活協同組合の東葛南支部に電話を入れたところ、代表の菅原幸司氏とつながり、参加 OK の返事を頂いた。一番心配していた 72 歳という高齢年齢もどうか範囲内ということで無事に参加が決まった。

6 月 28 日に指定された東武野田線馬込駅近くに集まり、東葛南支部の事務所で今回ボランティアを行う 6 名が顔合わせを行った。船橋の市議員も顔を出される中、自己紹介がはじまった。63 歳の方が 2 人おられ、年齢でカットされるのではないかと懸念を表明しておられたが、私の番になり 72 歳の私の年齢を聞いて安堵されたようであった。



6 人のボランティア・前列中央が筆者

同日夜、午後 10 時 50 分、いよいよ出発。ツアーチーフの菅原氏がハンドルを握り東京から東北自動車道の水沢 IC や国道 4 号・397 号を経由して、6 月 29 日 AM 6:30 に住田ボランティア基地に到着した。この基地は岩手県気仙郡住田町で、北は遠野市、南は陸前高田市、西は奥州市、東は釜石市・大船渡市に囲まれた位置にある。この基地は大股小学校が廃校となり、公民館として利用されていたが、震災後はボランティア基地に衣替えされていた。この基地で持参したおにぎりやパンの朝食を終えて、陸前高田のボランティアセンターに移り、ボランティア保険の登録を済ませ、活動先を紹介してもらった。8 時 40 分、いよいよ陸前高田の活動現場に向かう。

途中の広田湾内の津波の後遺症は想像していた風景をはるかに超えており、車窓から何回かシャッターを押した。9 時 15 分陸前高田市小友町ウソザワ漁港に到着し、ここで牡蠣の養殖を営む千田見さんの指導のもと養殖用いかに造りに 9 時 30 分から 15 時 15 分まで汗を流した。直径 20cm もある杉の丸太を交互に組みドリルで穴をあけ、鉄棒を差し込みボルトで締めて仕上げる仕事だが、横 10m、縦 6m もある大きないかなので穴を開ける箇所がたくさんあり大変な作業であった。午前と午後 1 台ずつの計 2 台しかできなかったが、気温 31 度の中で額から汗がほとばしる作業であった。千田さんの会社では 800 台あったいかなだがすべて流されたので、これから 3 年分の 660 台を造る目標で今年は 220 台を造るとのこと。従業員 30 名は雇用を継続しておるとの話を聞いて立派な経営姿勢に心の中で大きな拍手をした。作業中にも大阪警察本部の行方不明者の捜索があったり、岩手日報の取材があったりと騒々しいものであった。養殖の牡蠣が食用になるのは 3 年かかるそうで、3 年後にこの地を再度訪れて採りたての牡蠣を食べさせていただく事を約束してウソザワ漁港を後にした。

帰路では菅原氏の配慮で越前高田の市街地や、あの津波の中で唯一残った一本松を見物し、さらにコンビニのローソンで夕食や缶ビールを購入して住田基地に戻った。基地では仮設風呂があり、3 人ずつ入浴して汗を流すことができた。この夜は疲れと酔いが重なって 9 時頃には寝袋にくるまって就寝した。

6 月 30 日、木曜日、いよいよこの日が今回のボランティア活動の最終日である。5 時 30 分に起床し、荷物の整理をしていると、菅原氏が朝の散歩に行きましようと言う。全員で散歩とはおかしいと思ったが付き合うことにした。この基地の前の国道 297 号を少し戻り、ゆるい坂を下ると多分旧道沿いと思われる狭い道路に出る。この道沿いに右に小さい民家があり、80 歳前後と思われるおばあさんが雑貨屋を開いており朝の 6 時から店を開けているとのこと。店の屋号も見当たらないほど小さな店である。店の売りに上げて少しでも貢献しようと、全員袋菓子などを購入したが、ハエタタキなどは置いてなかった。おばあさんは早朝からの来客に驚き、尚且つ喜びを顔中に表して「これはうまいものではないけれど」と前置きして、岩手名物である南部せんべいを全員に一袋ずつプレゼントしてくれた。全員感激して次回この基地を来訪した時は、この店で買い物しようと誓い合った。



72歳、被災地でのボランティア活動手記



基地に戻って、購入しておいたおにぎりやパンで朝食を済ませて、7時45分基地を出発し、15分ほどで同じ町内にある仮設住宅を訪問した。ここには陸前高田と大船渡の被災者が60戸の檜づくりの個別住宅で生活されており、プライバシーが守られている分、入居者の方々は満足されているようであった。この被災者の団地の代表者に会い、船橋から持参したハエタタキとハエとりリボンを戸数分届けた。

次に訪問したのは大船渡市の赤崎大立仮設住宅で61戸に202名の方が生活しておられ、代表の方にお会いし、またハエタタキなどをお渡しした。3番目の仮設住宅は蛸ヶ浦団地で蛸ヶ浦小学校の校庭に建てられており、182名の方が入居しておられた。11時30分には全ての活動を終えて、まだまだ瓦礫の処理が進んでいない大船渡市の市街地を抜けて帰路についた。当初のスケジュール通り、夜7時過ぎに船橋・馬込沢の事務所に到着して解散となった。



孫の太亮くん

第一回目からおよそ2ヶ月経過した8月、孫の太亮（ダイスケ）の夏休み中にボランティア活動に参加させようと思い、8月23日～26日のボランティア11便に参加することができた。前回と同じように陸前高田のウソザワ漁港で牡蠣の養殖用のイカダ造りに汗を流し、5台完成させることができた。太亮も最初は戸惑っていたようだが、だんだん慣れてきて電動ドリルで杉の丸太に穴をあける作業をこなすようになった。私は、前回同様でナットを使ってボルトを締め付ける作業に専心した。イカダ作りの作業が終了してから車で碇石海岸に向かい今回の大地震が嘘のように岩が散在する景勝地を歩いて疲れを癒すことができた。この日の夕食は牡蠣養殖経営者の千田さんとその友人の方々を囲んでモビリアの仮設住宅の一画でバーベキューを設営し、その住宅の子供たちを中心に花火大会を8時まで開き楽しむことができた。太亮も連続して打ち上げ花火を上げるなどハッスルしていたようだ。

26日の金曜日、今回のボランティアの最終日を迎えた。2008年に発生した宮城内陸地震跡地を見学したが、まだまだ土石流による崩壊の爪あとが残る現地では大規模な復旧作業が続けられていた。この後、巖美溪に移動して近くの道の駅で昼食を終えて、一ノ関インターから東北自動車道に入り新鎌ヶ谷駅についた。

今回は孫の太亮と二人でボランティアに参加して費用も二人で6万円ほどかかったが、今15歳の彼の今後の人生を考えると、お金に代えられない貴重な経験をさせてあげられたと思う。

このボランティアの続編として10月14～15日妻と二人で栗駒高原を訪れ、私は栗駒山登山を果たし、東北の息をのむような見事な紅葉を満喫した。

この回想文を終えるに当たって、72歳にして2回に亘り被災地のいかだ造りの仕事をやり遂げられたのも、丈夫に生んで育ててくれた今は亡き両親と43年間私の健康保持のため気配りをしてくれた妻に感謝したい。今回の大震災と原発事故を振り返ると、人間は科学・技術の進歩によって大自然に対する驕りを保持していたが、いまやこの考えを捨て去り、これまで以上に自然に対して謙虚になるべきであるとの思いを強くした。



経鷺会これからの行事：皆様のご参加をお待ちしております。

- 経鷺会サロン・・・原則として毎月1日、土・日・休日の際は11日、夕方、ワインセミナー（SophiansNetと合流）、ソフィアンズクラブ
（日程の予定が変わることもあります。経鷺会ブログ参照）
- エコノミアンズ・ゴルフ・・・5月12日（土）、金乃台カントリー倶楽部、ソフィア経済人倶楽部と共催
- ASF・・・5月27日（日）11:00～14:00、経鷺会コーナー、SJガーデン



研究奨励金への寄付の御願い

この研究奨励金は、経済学部成績優秀な学生に対して行う制度で、上智大学募金室を通じ、経済学部に支払いしております。これからこの活動を活性化させていくためにも、皆様の寄付のご協力を宜しく御願い申し上げます。

また、経鷺会会費（年会費¥3,000）の納入も合わせて引き続き、どうぞ宜しく御願い申し上げます。尚、寄付を頂ける場合はその旨、お振込の際に、「ショウレイキン」と明記くださいませ。（奨励金は1口2,000円以上で御願いいたします。）

振込先：郵便局 口座名：上智大学経鷺会 口座番号：00150-8-537559



THE TOFU PROJECT & MITECO.CO トウフプロジェクトとミテココの取り組み

東さんは、都銀、外資系証券会社などを経て02年早稲田大学大学院修了。現在、J300、Tofu Project、SPARK!などのプロジェクトや起業家コミュニティに関わりながらウナギトラベルの名の miteco.co という新しいサービスを立ち上げてらっしゃいます。今回は女性企業家として精力的に活躍されている活動の一部をご紹介します。

私が関わっているプロジェクトと新規事業についてご紹介させていただきます。

TOFU Project (トウフ・プロジェクト) <http://thetofuproject.com/>

トウフ・プロジェクトは、日本で創造されたモノ・サービスを、世界に伝えるためにサンフランシスコ在住のジャーナリストの片山理沙さんとデザイナー兼フォトグラファーの齋藤智之さんが立ち上げた主に起業家向けのプログラムです。世界の起業家、イノベーター、そしてビジネスリーダーのコミュニティをつくり上げ、業界・世代・文化を超えて、日本のクリエイティビティと世界とをつなげることを目的としています。

私は一昨年の秋に起業家である知人を介して片山理沙さんと出会い、彼女のパッションに共感をしてプロジェクトメンバーとして参画をし、主にコミュニケーション(対メディア、応募者の面談など)を担当しています。

トウフ・プロジェクトの代表イベントは「ウィーク・オブ・トウフ」という実際にシリコンバレー、サンフランシスコに行く一週間のプログラムです。サンフランシスコのデザイン思考、リーダーシップトレーニングセミナー、現地の起業家とのネットワーキングを通して、参加者のビジョンを世界に発信する力を養います。

私自身も昨年の10月末から11月上旬にかけて9名の日本からの起業家やリーダー達と一緒にメンバーとして参加してきました。Google 本社での Google+ 開発責任者との話し合い、スピーキングコーチによるスピーチレッスン、現地起業家とのネットワーキングなど日々インタラクティブなプログラムを通し、挑戦する人たちを賞賛し応援する空気を感じました。お金や制度云々より、その圧倒的な空気に勇気づけられる思いでした。

ところでなぜトウフか?という点ですが、TOFU「豆腐」は世界中で TOFU として認知されていて、このような「世界中で愛される」ビジネスを日本から産み出そうという思いでやっているからです!日米で様々なイベントを開催しています。ウェブサイトをご覧くださいましたら幸いです。



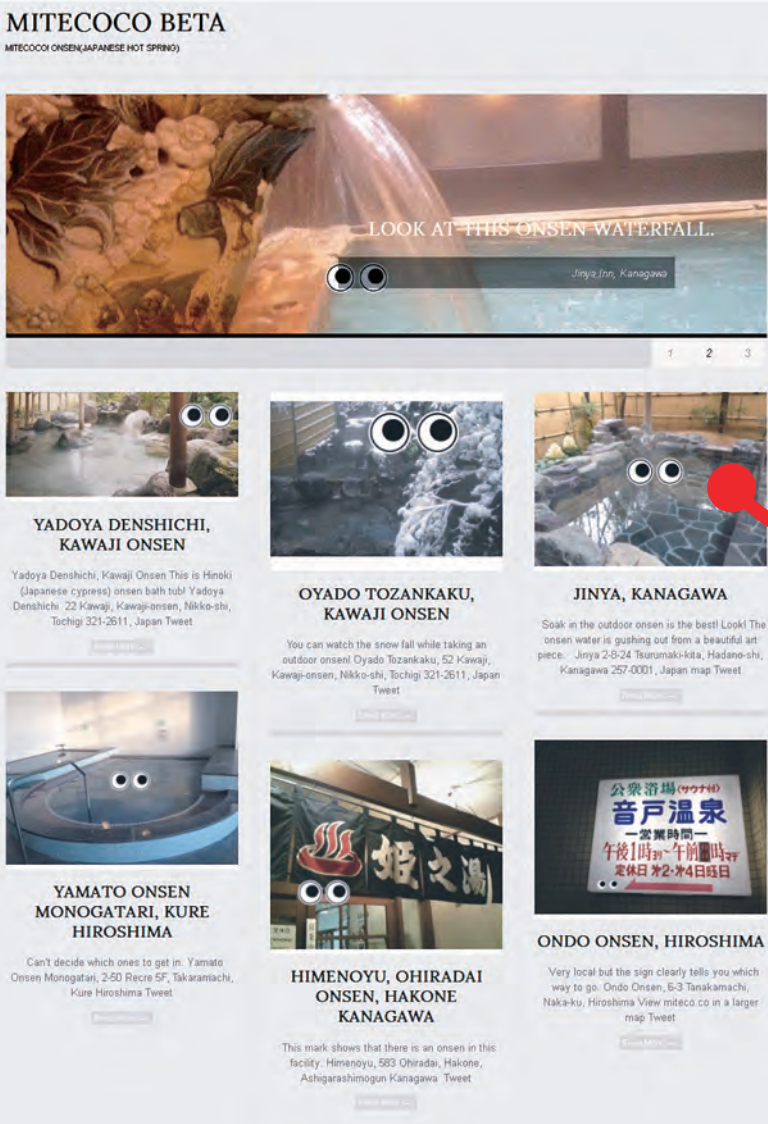
見てここ！ <http://miteco.co/> 一日本の見所をみんなで発掘、共有するサイト

miteco.co は、今チャレンジ中の新規ビジネスです。miteco.co は、目の付けどころを写真で共有できるサイトです。何かにハッとして撮った写真でも、他人には分かりにく場合があります。そこで、目を付けた所に「目玉」を実際に付けて目の付けどころを共有してしまおうというサービスです。エレファントデザインを創業された西山浩平さん、ホテル業界で活躍された後にホテルや飲食店向けのコンサルティング会社のゲリラコンサルティングを創業された大佐古宗則さんと一緒に立ち上げ中です。

今年の1月から2月にかけての一月間、広島のアリエンタルホテルさんのギャラリーで「見てここ！展」を開催し、広島の皆さんにも参画いただき広島の見所に目を付けサイトで共有しました。現在は、インバウンド（訪日外国人向け）のサイトとし、日本の温泉に目を付けて見所を共有しています。全国各地に温泉はありますが、外国人客のニーズは様々です。miteco.co で紹介されている温泉旅館の一つに神奈川県秦野市の陣屋さんがあります。小田急線で新宿から一本。日帰りでも可能な歴史ある温泉旅館です。今後、地域展開やテーマ展開をはかり、様々な見所を発掘、共有していきます。あくまでも miteco.co は、みんなで目の付けどころを共有する（ユーザー・ジェネレイテッド）サイトです。各地域の人たちと組んで、日本の魅力を共有していきたいと考えています。

3月18日にNHKの新番組「スーパープレゼンテーション」の放送に先立ちNHK主催で開催されたイベント「TED meets スーパープレゼンテーション」で miteco.co についてプレゼン。3月30日には、その番組のナビゲーターを務められるMITメディアラボ所長を含めてNHK主催でGoogle+ ハングアウトイベントにも参加。今後も miteco.co の魅力について発信を続けていきます。

MITECOCO BETA
MITECOCO ONSEN(JAPANESE HOT SPRING)



LOOK AT THIS ONSEN WATERFALL.
Jinya Inn, Kanagawa

YADODA DENSHICHI, KAWAJI ONSEN
Yadoda Denshichi, Kawaji Onsen This is Hinoki (Japanese cypress) onsen bath tub! Yadoda Denshichi: 22 Kawaji, Kawaji-onsen, Niihara-shi, Tochigi 321-2611, Japan Tweet

OYADO TOZANKAKU, KAWAJI ONSEN
You can watch the snow fall while taking an outdoor onsen! Oyado Tozankaku, 52 Kawaji, Kawaji-onsen, Niihara-shi, Tochigi 321-2611, Japan Tweet

JINYA, KANAGAWA
Soak in the outdoor onsen is the best! Look! The onsen water is pushing out from a beautiful art piece. Jinya 2-8-24 Tsunomaki-kita, Hadano-shi, Kanagawa 257-0001, Japan map Tweet

YAMATO ONSEN MONOGATARI, KURE HIROSHIMA
Can't decide which ones to get in. Yamato Onsen Monogatari, 2-50 Recre 5F, Takaramachi, Kure Hiroshima Tweet

HIMENOYU, OHIRADAI ONSEN, HAKONE KANAGAWA
This mark shows that there is an onsen in this facility. Himenoyu, 583 Ohiradai, Hakone, Ashigara-shi Kanagawa Tweet

ONDO ONSEN, HIROSHIMA
Very local but the sign clearly tells you which way to go. Ondo Onsen, 6-3 Tanakamachi, Naka-ku, Hiroshima View miteco.co in a larger map Tweet



Miteco.co はエリアの見所を『目玉』で伝える新しい形のエリア情報発信サービスです。



Miteco.co を通じて県のエリア情報を発信している広島では、そのコンセプトと情報を紹介する展示会を開きました。



上智大学経鷺会からの御願い

上智大学経済学部卒業生の皆様

経済学部奨学基金(新設)募金にご協力ください

— 2013 年 経済学部 100 周年・上智大学 100 周年に向けて —

経済学部は、1913 年上智大学開校と同時にその前身である「商科」が設置され、本学の歴史と共に発展をとげてきました。日本の産業界を支え、またグローバル社会で活躍する有意な人材を多数輩出してきました。

2013 年、上智大学と経済学部は創立 100 周年を迎えます。この記念すべき年に学生達の修学を支え、励まし、自ら学んだ専門的知識をもってより良い世界の実現に果敢に取り組んでほしい、との願いから、今般、経済学部独自の奨学金制度を新設することになりました。

奨学金の源泉は創立 100 周年募金にご協力くださった経済学部卒業生と学生ご父母からの貴重なご寄付で、2012 年 3 月末に基金を設置し、4 月から奨学金給付を行う予定です。しかしながら、基金設置には最低 1000 万円の資金が必要で、現在まで達成されていません。

つきましては、現下の経済状況に鑑み誠に心苦しい限りではありますが、学生達の学びを支え、本学の教育の精神“Men and Women for Others, with Others”を体した優秀な卒業生を社会に、世界に送り出すため、格別のご理解とご支援をお願い申し上げます。

なお、本募金活動は経済学部の同窓会組織である「上智大学経鷺会」の全面的な支援のもとで推進しております。

上智大学経済学部長 上山 隆大

上智大学創立 100 周年記念事業募金委員会委員長 上原 治也('69 経営卒)
三菱 UFJ 信託銀行取締役会長

<経済学部奨学基金募金概要>

1. 奨学金名称 創立 100 周年記念 上智大学経済学部・経鷺会奨学金
2. 基金目標額 3千万円
3. 当面の計画 4月からの奨学金給付に必要な最低1千万円の基金原資を2012年3月末までに確保する必要があります。何卒お願い申し上げます。
4. 備考 ご寄付は上智大学創立100周年募金を通じて頂戴します。

連絡先 奨学金については上智大学経済学部長室へ TEL03-3238-3202 募金については 上智学院財務局募金室へ TEL03-3238-3198
--